I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 39
Cannonball Adderley【キャノンボール・アダレイ】
～ソウル・ジャズ、ファンキー・ジャズの立役者～

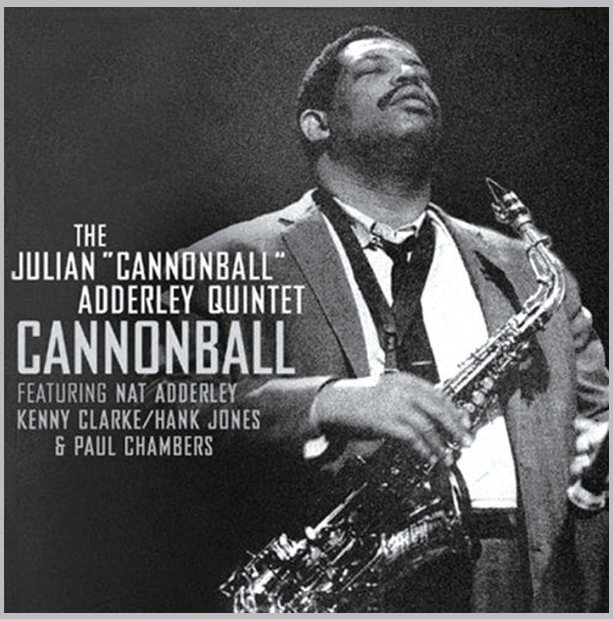

Photo from "Cannonball" ／ The Julian Cannonball Adderley Quintet (Jazz Door)

Profile

1928 年 9 月 15 日、米国フロリダ州タンパ生まれ。本名は Julian Edwin Adderley。キャノンボール（Cannonball）はあだ名で、仲間が大食家だったジュリアンを揶揄するつもりで「キャンニバル（cannibal ＝人食い人種）」と言うところを、「キャンニボル」と発音してしまい、それが変化して「キャノンボール」となったのが由来とされる。父親はコルネット奏者で、弟のナットもコルネット奏者。ハイスクール時代に管楽器を学び、地元で音楽教師を務めながら自己のグループを率いて活動を開始。55 年に弟のナットと共にニューヨークに進出し、その実力が注目される。57 年にマイルス・デイヴィス・セクステットに参加し、マイルスの名盤『マイルストーン』『カインド・オブ・ブルー』のレコーディングに参加。58 年にキャノンボールの名義ながら実質的にはマイルスのリーダー作とされる『サムシン・エルス』を発表。59 年 9 月にマイルスの元を離れ、弟のナット等とレギュラー・クインテットを結成。62 年にはセルジオ・メンデスと共演し、ボサノヴァを取り上げたアルバム『キャノンボールズ・ボサノヴァ』がヒットを記録。63 年 7 月に来日を果たし、東京公演の模様はライヴ盤『ニッポン・ソウル』に収められた。66 年にはソウル・ジャズの名盤『マーシー・マーシー・マーシー』を発表。70 年代も自己のグループを率いてライヴ活動やアルバム制作を積極的に行った。若い頃から大食癖に起因する糖尿病や偏頭痛に悩まされていたが、“ チャーリー・パーカーの再来 ” とも称され、ソウル・ジャズ、ファンキー・ジャズの立役者の一人としてジャズ史に多大な貢献を果たす。1975 年 8 月 8 日、脳梗塞によりインディアナ州ゲイリーにて死去。享年 46 歳。遺体はフロリダ州テネシーにあるサウスサイドの共同墓地に埋葬された。

CA's Great Album

ジョン・コルトレーン参加の『クインテット・イン・シカゴ』やビル・エヴァンス参加の『ノウ・ホワット・アイ・ミーン』。1963 年の来日公演を収めた『ニッポン・ソウル』もお薦めです。

キャノンボールとマイルスの存在感が際立つブルーノートの歴史的名盤

サムシン・エルス
キャノンボール・アダレイ
（ユニバーサル・ミュージック：UCCU-99001）

キャノンボール・アダレイ (as)、マイルス・デイヴィス (tp)、ハンク・ジョーンズ (p)、サム・ジョーンズ (b)、他

1. 枯葉 2. ラヴ・フォー・セール 3. サムシン・エルス 4. ワン・フォー・ダディー・オー 5. ダンシング・イン・ザ・ダーク

実質的にはマイルス・デイヴィスのリーダー・アルバムとされるブルーノートの名盤だが、名義上のリーダーはキャノンボールなので、彼の名盤として紹介したい。オープニングの「枯葉」はマイルスのミュート・トランペットの名演で知られるが、キャノンボールのアルトも文句なく素晴らしく、ハンク・ジョーンズのピアノ、サム・ジョーンズのベースも哀愁深い。「ラヴ・フォー・セール」「サムシン・エルス」も痺れる。1958 年録音。

ボサ・リオ・セクステットと共演のキャノンボールの名ボサ・ノヴァ作

キャノンボールズ・ボサ・ノヴァ
キャノンボール・アダレイ
（ユニバーサル・ミュージック：TOCJ-90020）

キャノンボール・アダレイ (as)、セルジオ・メンデス (p)、ペドロ・パウロ (tp)、パウロ・モウラ (as)、他

1. クラウズ 2. ミーニャ・サウダージ 3. コルコヴァード 4. バチーダ・ヂフェレンテ 5. ジョイスのサンバ 6. グルーヴィー・サンバ（他、全 8 曲）

キャノンボールが若き日のセルジオ・メンデス率いる“ボサ・リオ・セクステット”と録音したボサ・ノヴァ作。キャノンボールの熱いアルトとブラジリアン・リズムが心地良い融合をみせ、メンデスのピアノをはじめ、本場ブラジルのプレイヤー達のクールな好演も聴き逃せない。キャノンボールのアドリブも素晴らしいジョビン作「コルコヴァード」の他、参加メンバーのオリジナル等全 8 曲を収録。1962 年録音の人気アルバム。

ジョー・ザヴィヌルを擁した大ヒット・ファンキー・アルバム！

マーシー・マーシー・マーシー
キャノンボール・アダレイ
（ユニバーサル・ミュージック：UCCU-99064）

キャノンボール・アダレイ (as)、ナット・アダレイ (cor)、ジョー・ザヴィヌル (p)、ヴィクター・ガスキン (b)、他

1. イントロダクション～ファン 2. ゲームズ 3. マーシー・マーシー・マーシー 4. スティックス 5. ヒッポデルフィア 6. サック・オー・ウー

このアルバムのハイライトは何と言っても、後にウェザー・リポートを結成することになるジョー・ザヴィヌル作の大ヒット曲「マーシー・マーシー・マーシー」。そのザヴィヌルをレギュラー・ピアニストに擁したキャノンボールがソウル・ジャズの全盛期に放ったライヴの傑作。録音は 1966 年。ジャケットに「Live at “The Club”」と記載されているが、LA キャピトルでのスタジオ・ライヴを収録したもの。臨場感も抜群で必聴の 1 枚。

“チャーリー・パーカーの再来”

1955 年夏、同年 3 月に 34 歳の若さでこの世を去ったチャーリー・パーカーと入れ替わるように、突如ニューヨークに出現したキャノンボール。オスカー・ペティフォード（b）のギグに飛び入し、圧倒的なテクニックを披露すると一夜にしてその名がニューヨーク中に知れ渡った。チャーリー・パーカーと同じアルト・サックス奏者で、圧倒的なテクニックを誇ったこともあり、“チャーリー・パーカーの再来”と称された。また、デイヴィッド・サンボーンは「チャーリー・パーカーは別格として、キャノンボールがアルト奏者の最高峰である」とも語っている。

名曲「キャノン・ボール」

上述した「マーシー・マーシー・マーシー」の作曲者ジョー・ザヴィヌルが、その後ウェイン・ショーター等と結成した“ウェザー・リポート”で 1976 年に発表したアルバム『ブラック・マーケット』に、このアルバムが録音される約 4 か月前に亡くなった嘗てのボス＆バンド・リーダーであったキャノンボールに捧げたナンバーが収録されている。2 曲目に収録されている「キャノン・ボール」だ。しんみりとした感じではなく、キャノンボールらしくハッピーな感じに仕上げられたサウンドがいい。この曲ではジャコ・パストリアスがベースを弾いている。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.12

~ Waltz For Debby【ワルツ・フォー・デビイ】~

この曲はジャズ・ピアニストのビル・エヴァンスが 1956 年、当時幼かった姪っ子デビイに捧げるために作曲したナンバーで、初リーダー・アルバム『ニュー・ジャズ・コンセプション』にソロで収録された。その後、1961 年に自身のトリオでニューヨークの「ヴィレッジ・ヴァンガード」で行ったライヴを収録したアルバム『ワルツ・フォー・デビイ』に収録されたヴァージョンが人気を呼び、これまでに数多くのアーティストたちにカヴァーされ続けている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

ビル・エヴァンス・トリオ『ワルツ・フォー・デビイ』
キャノンボール・アダレイ『ノウ・ホワット・アイ・ミーン』
モニカ・ゼタールンド『ワルツ・フォー・デビイ』
デビッド・ヘイゼルタイン・トリオ『ワルツ・フォー・デビイ』
土岐麻子『タッチ』